

決戦下の土木戦士

——名古屋土木出張所管内を見る——

清水生

灼熱の鐵路を西へ走る

決戦體制下に於いて人的にも物的にも總てが思ふやうに行かないのを克服して、戦時土木魂を打込んで酷熱を征服しつゝ超非常時下土木の第一線に働く所謂土木戦士の現状を目の邊り見るのも敢て徒爾ではないと思ふたので、平井幹事と筆者は盛夏七月の下旬灼熱の鐵路を西へくくと走つたが、中京名古屋に着いて早速同市東區上野杉町にある内務省名古屋土木出張所を踏傍の人々に尋ね見たら、只だ最後に聞いた人の外は大抵の人々は……内務省の土木出張所……そんな所は知らないと言つて皆目判らなかつた。筆者はまだ「我が國の國民は土木行政……事業なんかと云ふことにはあまり關心を持つ人々が尠ないのに驚かされたのである。これを獨逸邊りで比較したならばどうであらうか、苟も一國の産

業の發展文化の向上其他有ゆる國家發展に直接間接を問はず至大の影響と關係のある、土木行政土木事業には獨逸國民は細心の注意を拂つてこれに多大の關心を持つてゐるのである。彼の獨逸の完備せる道路網にせよ、獨逸の治水事業にせよ、又は港灣の設備にせよ、其他國土土木に關係ある凡ての土木事業に關しては獨逸の當局者も亦國民も最大の注意を拂つて居るから、あのやうに獨逸の土木事業は完備發達し、延いては國民生活の向上を來たし、富國強兵が出來上つたのである、世界の距離を半分以上に短縮されて交通上に將又經濟上にも文化上にも多大の躍進を見て世界の形勢を一變せしめたと云はるゝ、彼の巴奈馬及びスエズ運河の開鑿の如きも畢竟土木事業の範圍に於いてなされた事業である、然るに直率に云へば我が國民は今少しく土木行政土木事業に關心を拂つて貰ひたいやうな氣がするのである。餘談は省いて漸く

尋ねて平井幹事と筆者は名古屋の土木出張所に辿りついて富永所長を訪うたら生憎く所長は公務を帯びて上京中であつたので、三池工務部長と瀧川庶務課長等が快く迎へてくれて先づ出張所樓上で來訪の趣旨を平井幹事から述べると共に管内土木についての概念を聞いたのであるが、夫れに依ると、

名古屋土木出張所の受持ち區域は大體に於いて愛知縣と福井縣の全體及び京都府滋賀縣の一部と伊賀を除く三重縣の全部更に岐阜縣は飛驒を除く全部と靜岡縣の大井川以西に加ふるに長野縣の木曾天龍の流域と諏訪湖までその管内に入つてゐる所謂中部日本は名古屋土木出張所の管轄區域であると言つてよいのである、この廣大な管内には河川では木曾天龍の巨川を始め菊川、太田川、豐川、矢作川、庄内川、福井川、元頭龍川、北川の諸川の改修砂防等の治水諸工事や敦賀港の修築事業や幹線たる東海道國道の改良建設や其他管内凡ゆる土木事業に加ふるに陸海兩省關係の〇〇事業まで負擔してゐる。

と、説明を受けたが専門家ならざる筆者には詳細なる技術的方面は克く頭に入らないが、兎も角却々の大仕事であると思ふたのであつた。

庄内川の改修工事を見る

名古屋土木出張所の管内中部日本と云ふところは愛知、靜岡、

山梨、長野、新潟、富山、石川、福井、岐阜等の諸縣を包含したる地方を指すのであるが特に濃尾の平野に位する名古屋市は其の面積十六萬平方杆餘に互つて人口百三十七萬を擁して中部日本の一大都市を形成して居り、殊にこゝを中心とする地帯一體は工業の殷賑を極めて、所謂増産強補に密與するに甚大のところである、故に中部の産業經濟の中心であると共に文化の中心もこゝにあつて却々の樞要の地である、平井幹事と筆者はこの名古屋市の外廓を東北端から西側に互つて圍繞して一度洪水の場合は名古屋市の受くる脅威は勿論我國の重要な軍需工業地帯をも潰滅せしむるとの杞憂する、庄内川及びその支川である矢作川の改修計畫の現状を見せて貰らうことになつたので庄内川工事事務所の主任技師の畑谷正實氏が非常なる好意に依つて同河川改修中の最も重要な箇所である枇杷島の現場に案内されて詳細に説明してくれたが、

庄内川の改修計畫と云ふのは同河川の流域は愛知縣下では名古屋市を含んで海部、西春日井、東春日井、愛知と岐阜縣下では可兒、上岐、惠那の各郡に互つて其の流域面積は山地五百十八平方杆、平地百八十七平方杆であつてこれまでの水害損失額は昭和六年から同十五年間十ヶ年の毎年平均額は約六十二萬圓餘の巨額に及んでゐることである。夫れで改修區域は幹川では左岸は守山町からと右岸は鳥居松村から名古屋市の一色町

に至る二十六軒と支川矢作川は左岸は猪高村右岸は守山町から幹川合流點に至る九軒と、やはり支川地蔵川は左岸勝川町右岸鳥居松町から幹川合流點に至る三軒と派川新川は左岸山田村と右岸楠村から合瀬川合流點に至る二軒であるが、この改修工事によつて名古屋市は洪水の氾濫から免かれるのと共に沿岸所在の各種工業特に軍需工業の諸施設は安全の確保を見て生産擴充計畫の遂行には支障がなくなるのと沿岸一帯の耕地の水害を除去して毎年の災害復舊費耕地等の損耗はなくなつて決戦下農作物の生産増強には大いに役立ち、更に工場及び交通諸施設等にも益するところ甚大なるは東海道線中央線私鐵名古屋電鐵及び府縣道等重要な交通機關の安全と衛生状態の改善等には直接間接の莫大なる効果を齎らすのである。

と云はれたが、畑谷技師は竣工期間について車中で筆者の問ひに對して、

この改修工事は昭和十七年から始まつて同十九年竣成の豫定であつたが十年度に豫算三分の一減額を見たので二十年度に竣工を繰り下げることになつた。

と云はれたが、四ヶ年繼續計畫のやうである、現在工事に従事してゐる約二百餘名の入夫は殊にその部署に依つて華氏九十餘度に上る酷熱下に於いても戦線の將兵に負けない氣持で働いて居るのを見て感謝の念が自然に湧き出たのであつた、一部ではあるが改

修工事を實地に見たる吾々は更に車を轉じて名古屋から岐阜に遷する新國道の一部を視察することを得たが實に立派な鋪裝工事が出来上つてゐる。殊に枇杷島町を貫通する大道と鐵道の交叉地點には立體交叉となつて袴線橋と云つて上を自動車が行り下は人道となつて列車はこの立體橋の下を通過する構造は技術の何たるやを解せない筆者にも近代道路技術の進歩向上を思はしむるのであつた。

序いでに彼の群雄割據の時代に尾張斯波氏の家臣織田の家に生れて父信秀の後を繼いだ後、四方に敵を受けながら足掛七年間、身は僅かに二十一歳を以て尾張全國を統一して次いで當時東海の雄今川義元を桶狭間に倒し、齋藤を亡して美濃の國を平定し、かくて英名を天下に馳せて天下統一の偉業を志し折角その緒についたのに、突如本能寺で不慮の死を遂げたる英雄信長の最初の居城であつたと云はるゝ清洲城跡を見て、當時餘り基礎堅固でなかつた足利氏の統治權が衰へて我國は又もや大地主割據の時代に還つて各地に小さい中央集權が成立せられて其間に激烈なる生存競争を見るに至つた、既往を回顧しつゝ彼の志業を繼いで全日本を統一して更に外征をも企てた、氣宇雄大の英雄秀吉を出したり、慶長十五年に家康が其の子義直のため自ら檢地をして前田淺野等二十餘名の諸侯に命じて築城させたと稱せらるゝ天主閣上に黄金の鯉の輝く名城、嘗ては一世を支配したる巨頭公柱太郎がこの地の

師團長時代に妻女を亡くした淋しさに堪へ兼ねて後妻に懇願して貰つた名學香雪軒の養女加奈子夫人を出したり、伊那節で賣出して、ラジオや蓄音機で馴染みの市丸を出したりした中京をあとにして平井幹事と筆者は名古屋驛を出發伊勢路に向つたのは盛夏七月の二十八日午後四時であつた。

鈴鹿川工事事務所に泊る

曩に名古屋の土木出張所に到着した平井幹事と筆者は庄内川改修工事の主なる箇所と名阜間の新道の一部を見せて貰つたあとで鈴鹿川工事事務所をお尋ねしたいからと、池本鈴鹿川工事事務所長に時間を云つて傳へて貰つたが、どう間違へたか寸餘の暇もない多忙な池本技師はわざ／＼四日市驛まで出迎へに來てくれて一時間餘も待つたと云はれたのは、心弱かに穴があればこゝに入りたい程縮縮したのであつたと同時にお詫びする言葉も満足に出なかつたのであつた。何等か辯解するやうでもあるが吾々も格言に「時は金なり」と時の貴重なることは熟知してゐるが、傳言を依頼して急遽視察に出かけたから茲に時間の間違ひが生じたことと思はれるが、兎に角激務多忙の池本技師に時餘を空費致さしめたことを紙上で深くお詫して置く次第である、四日市についた吾々は池本所長の案内で先づ同市濱田にある鈴鹿川工事事務所に至つて同事務所の状況を見た上で鈴鹿山麓の麓丘陵地帯にある〇〇工

事の現場にある事務所と宿舍と飯場とに到着したのはもう午後五時を過ぎであつた、此處の仕事は〇〇の委託に依つて〇〇工場を設置するための土木事業であるが、兎に角視察は翌朝にして池本所長の好意によつてこゝの宿舍に一夜泊めて貰うことにしたのである、宿舍はバラック建であるが食堂居室から浴場洗面所等大體整つて居て、池本所長を始め附近に居住する職員は他は全部ここに滞在して懐槍苦烈を極む現下決戦下に於いて戦争完遂に直接關係のある〇〇の委託土木工事を一日も急速に竣工せしむべく、渾身の努力を拂つてゐる、即ち時局下日本土木魂を發揮してゐる人々であるが、この晩は吾々は非常に愉快であつた、鈴鹿海軍工廠總務部長から池本所長に送られた。

當廠設立に關して種々多大の御高配に預り御蔭を以て六月一日開工仕り候、感謝に不堪茲に御禮申上候、次々整備に生産力に努力致し候へ共何分建設途上に有之今後一層御援助を賜り度宜敷御願申上候。
の感謝状と、

昭和十八年四月十日鈴鹿工事事務所内に於いて、新規採用の訓練を開始するや、同訓練所長として生徒の指導宜しきを得、戦時吏道精神の昂揚と土木技術の修得に對し所期の効果を收めたり。

と、内務省名古屋土木出張所長從四位勳四等富永正義氏の表彰狀

が頼にして掲げてある。(職員訓練に關して前號參照)先づ入浴後池本所長の居室に於て晚餐を共にして、この事務所が現在擔當してゐる仕事から始まつて、話は次から次へと走馬燈の如く互に何等の隔意なく語り合つて夜の更くるのも知らなかつたのであつた特に氏のアフガニスタン滞在中に於ける同國諸般の狀況や國內土木建設のことに話が及んだが誠に裨益するところが多かつた、又疊に本誌がアフガニスタンの歴史産業交通の概況と題して記載したる記事について國內の名稱事情に造詣深き氏は既に同記事を読んで居られて却々に穿つたれてゐると云はれてゐたのは本誌の光榮であつた。池本技師は平井幹事と郷を同じうして……土佐はよ

いとこの南を受けて薩摩嵐はさよ／＼と歌はれ維新に幾多の勤皇志士を輩出した彼の高知縣の出身者である、氏は熊本の高工を出て内務省の土木局に入つたが、他の帝大出身の工學士連と伍して聊かの遜色なく、却つてその力量技術上の識見等に至つては敬服するところとなつてゐると筆者は嘗て他から聞いたことがあるが、今回平井幹事の紹介に依つて初めて對面し初めて語るに及んで一層その感を深くしたのであつた、氏は亦變つた經歷の持主である、夫れは回教的獨立國アフガニスタンの産業開發のために彼國の道路其他土木事業の指導者として同國政府の招聘に應じて遠く未開國に赴任して力を盡したことである、偲へば大東亞新秩序の建設を企圖してゐる東亞の盟主たる我國は總ては全亞細亞の復興を目

指して中央及び西方亞細亞に大なる關心を持たねばならない時節が到來するのであるが故に最近に於て徐々ながら回教國家の研究が稍や旺になつて來たが、この印度の北に當る回教獨立國に多年滞在して同國の土木行政事業に指導者として直接關與したることはアフガニスタンを理解しその造詣の深い點に於いて我國に於いて稀れに見る同國の識者であると共に必ずや近き將來氏の識見は大いに裨益せらるゝところあると思はれるのである。

〇〇の土木事業を見る

鈴鹿山麓の〇〇工事委託事務所内の職員宿舍に一夜を明かした平井幹事と筆者は池本所長を始め職員一同と先づ食堂で朝食を了へてから、事務所の區劃内に奉祀してある神宮に一事務員の號令に依つて規律正しく參拜して大東亞戰爭の必勝を祈願し次いで遙かに帝都の方向に宮城を拜して國旗掲揚の式を舉行して事務所に戻つたのであるが、聞くところによるとこの鈴鹿の工事事務所では毎朝毎夕所長を筆頭として従業員一同は毎日かやうに舉行してから就業退業となつて居るとのことであつた。事務所に於て吾々は所長室で池本氏の指圖に従つて今日の視察順序等を定めて先づ事務所の隣接地にある工夫の飯場を見たのであるが、此處の飯場に居る人々達は約六百餘名と聞いたが各班に分別して異々其の主任が居住を共にして責任を以て自治的に秩序ある生活をしてゐる

る。筆者は特にその衛生状態等について見たが、その設備も相當克く出来てゐると思はれたのである、一主任の筆者の問ひに對して云ふところに依ると。

此處の飯場では所長さん（池本技師を指す）がよい人であるから非常に一同團滿に仕事に従事して居る、喧嘩などは絶対になく仕事が終わつたら入浴食事後は各々雑誌を見たり歌等をうたつたり、ラジオを聴いたりして居るが、夫婦連れのものは克く獨りものの世話を焼いてゐる、只だ中には勞銀の高い他の方に行かうとするものもあるが、これはまあ吾々の方で克く處理してゐる。

このことであつた、飯場を一通り見た吾々は池本所長の案内で〇〇の工事を視察したのであるが、この工事を總括して云へば地均らし工事とこの〇〇に専用する大道路の建設等の大土木工事であるが、敷地は〇〇〇萬坪以上に達する一六〇〇であつて其の規模を來たすのであると思はれた、池本所長は茲に内務技師兼海軍技師として所謂戦力増強に資するため必死の力を傾倒して一刻も速かに建設の完成を急いでゐる、曆氏三十餘度の炎暑下に於いて皮膚は陽焼けして黒色を呈してゐる土工の人はローで土塊を運び或は地均らしに、又は〇〇専用道路の建設に酷熱をもともせず、滴たる熱汗は全身を傳つて入浴したやうであつても渾身の努

力を以て働いてゐる、土木第一線に起つ技術員も職員もこれに劣らず全く前線の將兵の心を以て時局下土木魂の氣魄を現場に漲らして働いてゐるのには心中感謝せざるを得ないのであつた。勿論池本所長が自から陣頭に立つて全責任を以つて當つてゐる、この土木事業についてはこれ以上書くことを憚るから省略することにしたが、この視察を了つた吾々は、

坂は照る／＼、鈴鹿は曇る、あひの土山雨が降る

と旅人に歌はれた、龜山から鈴鹿峠を越えて滋賀縣草津に出る所謂鈴鹿街道を視察して見たいと思ふたが時間の餘裕がないので龜山から參宮道路を見ることにしてわざ／＼こゝまで送つてくれた池本氏の前日來からの好意を深く謝して龜山驛前で別れたのであつた。

一號國道の改良工事の話を開く

先づ參宮國道の工事事務所は、……伊勢は津でもつ津は伊勢でもつ。……と云はるゝ伊勢灣に面したる三重縣の略は中央に位置する縣廳所在地の津市にあるのでこの事務所を訪れたのであつた、茲にも鈴鹿の工事事務所から池本所長の好意に依つて吾々の赴くことを前以て通じて置いてくれたので誠に好都合に便利を得たのであつた、この工事事務所には内務技師の熊本政晴氏が工事事務所長として就任して居たが、早速縣の西岡道路課長や道路課の松

尾地方技師に紹介され又同事務所に居る松川内務技手にも紹介されたあとで、此等の人々から參宮國道改良工事の概要を聞くことを得たのである夫れに依ると。

この道路は即ち東京から神宮に至る一號國道の一部であつて沿線には軍事上又は産業上最も重要な諸施設があり、殊に大東亜戦争の勃發に伴つて沿線一帯には更に大規模の軍事重要施設が隨所に續々と設置せられつゝあつて、従て軍用器材糧秣等の輸送激増して路面交通上の不安は倍加して、これを現道の儘で放置すると決戦下生産力の擴充國力の増強に及ぼす影響は甚大であるから急速改良をすることになつたのである、かやうな理由で着手したのである。

このことであつたが改良計畫の點について筆者の問ひに對してこの路線の改良計畫は先づ本市の「津市」大字岩田と云ふところの既設街路終點を起點として、略徑都市計畫議定線に準據して藤枝地内で現國道を横斷して左折して緊急電鐵の伊勢線と立體交叉をなし、これに沿つて米の庄、松江兩村界に至り、更に同地點からはやはり松阪都市計畫議定線に準じて南進して既設柳田橋を渡つて薄代村の地内の舊薄代驛附近で伊勢電鐵廢線敷と連結して幅員約八米である既設の道床の東側を擴築しつゝ、城田、小俣、兩村附近で廢線敷と分離左折して小俣町地内の既設度會橋に至つて終點となるのである、さうして幅員は大體十

一米乃至二十米で最小屈曲半径三十米であるが、都市計畫區域は全コンクリート舗裝として一般區域は砂利道であるが完成の上は全線に亘つて鐵道との平面交叉は全部なくなる譯である。このことである。更に聞くところによるとこの一號國道改良の總延長は三十二萬四千四百四十四米であつて勾配は最急五%、施工年度は本年度から二十年度まで即ち二ヶ年繼續土木工事であるが工費は約四百三十五萬を要して内津松阪の都市計畫の負擔額は百十三萬餘圓となつてゐるさうである。

參宮道路を視察

このやうに先づ伊勢路の國道改良計畫の概要を當局技術者の説明に依つて大體頭に入れた筆者はこの改良工事の所々現場について見せて貰ふことになりこゝでも熊本所長が身に寸餘の暇なき多忙にも拘らず案内してくれたのと、西岡道路課長も同車されることになつてゐたが都合に依つて道路課の松尾技師と一緒に歩いて呉れたことは只々感謝の外はないのであつた、熊本所長は視察途中一々詳細に要點のみを説明してくれたが、氏は帝大の工學部を優秀な成績で出てまだ青春に富んだ精氣溢刺技術上には相當の抱負と識見を持つてゐるやうに直感したのである、所々竣工してゐる改良の新道と舊道を双方に比較しつゝ、炎天下を主として舊道を走つたが、この改良して居る區間は頗る紆餘曲折が多く幅員も亦

狭少であつて所に依つては、僅かに五米突に満たない箇所も澤山あり素人の筆者でもこれでは交通上に多大の支障を及ぼすことが多く従つて重要幹線として到底その機能を果たすことは出来ないと思へたのであつた、松阪に着いて丁度正午になつたので、同市の料亭和田金で一行と共に晝食の饗應を受けたが、前に電話で傳へてあつたか近年口に入れたことのない精肉の御馳走にあつて舌鼓を打ちつゝ遠慮なく頂戴したのであつた、席上に松阪市長の後藤修氏と同市土木課長の伊藤四方平氏も特に見えられて席は賑はひ誠に愉快であつた、特に後藤市長から松坂市の一般現状や其他種々の話を聞いたのは大變益するところが多かつたのである、松阪市と云へば伊勢では津、四日市、桑名の各地と共に三重縣に於ける工業都市でこれまでは重工業と紡績業が發達して織物、蠶糸、漁網地なども相當の産額を示して居たが、近時伊勢灣に面する一帯の土地は軍需工業に急速の發達をなしつゝある結果、この松阪市も亦非常の躍進をなしつゝあることは市長の談によつても明かであるが、従て松阪港の築港も亦相當大規模のやうである、時間の關係上見ることがやめて食事後一同と共に案内されて城砦鑄びて古木亭々たる松阪城址にある國學の大奉本居宣長翁の居宅鈴酒舎を訪ふて數々ある遺物を參觀したのである。

偉大なる國學者の遺跡を參觀

この建物は元松阪の魚町に在つたのを遺蹟保存會が明治四十二に現在松阪の公園になつてゐる松阪城内に移建したものであるとのことなるが、翁の書齋は四疊半であつて階段を昇つた入口は襖一枚の引戸となつて室内は左側に床と押入がある、宣長翁はこゝに五十卷建の本箱十二箇を置いて並べこれに……あ、さ、よ、ひ、に、と、り、い、づ、る、ふ、み……の十二文字を符號として一字宛貼付けて書物の選別取出しに便としたと云はれてゐる。宣長翁の著述で公にせられたものみにも語學に關するもの九種十五卷、文學に關するもの四種十卷、註釋書六種三十四卷、古道説に關するもの二十種二十八卷、其他歌文雜書等合すれば五十八種百八十二卷の多きに達するのであるが、就中翁が最も心血を注いで著述した古事記傳四十四卷の如きは草稿本とも稱すべき貴重のものであるが、こゝに其の一部を陳列されてあるのを見て翁の精根の程に驚愕したのであるが全體本居宣長と云ふ人は古學的運動の機運を受けてこれを集大成した人である、愚へば宣長翁は實に國文學の文學的に語學的研究に於て國學者の事業を補充しただけではなく古道説に付ても實に我國の神道に新しい道を拓いたのであつて殊に翁の夥しい著作中重大なる價值を有する古事傳記其他の二三著書によつても古道の根本思想を明快に解決して居る即ち翁は。

古道とは天地萬國を一貫せる眞個の道である、この道は思索

作爲の結果に成れる道理や道德でなく我國古典に傳へられた事實に外ならぬ、それは我國のみ正しく傳はり、外國では既に之を失つて居る、それは古事記、日本紀の二書、就中古事記によつて正しく傳へられし自然の道である、この自然の道、さながらの事實と云ふことが古道と儒教の教との根本的相異である、不幸にして從來古道は佛教や儒教の道理に曲解せられ、附會せられ、利用せられて、其の眞面目を蔽はれて來た故に眞に古道を知らんと欲せば、先づ第一に漢意、儒意を漚く濯ぎ去つて大和魂を堅めることが肝要である。

ことになるのであつて、又翁は、

天地は一枚なれば皇國も漢國も天竺も其の餘の國々も皆同一天地の内にして皇國の天地、漢國の天地、天竺の天地と別々にあるものではない、されば天地の始まりのさまは、萬國の天地の始まりのさまである、然ればその時になり出給へる天之御中主神以下の神たちは萬國の神たち、日神は萬國を照し給ふ日神に外ならぬ、然るに若し此神たちを只だ日本のみの神とする時は天地の始まりも又日本のみの天地の始まり、日神も日本のみの日神にして異國の天地日月は別のものとなつて來るされど天地日月が國によつて異なるが如きことは有り得べき道理でない……高天原を支配し、今日に至るまで宇宙萬物に無限の恩恵を與へて居る天照大神の皇孫が……寶祚の隆なること、當に天壤

と共に窮まり無かるべし……との神勅を受けて君臨し給へるもの即ち日本國である、故に日本國は萬國の元本大宗たる國である、これ神代の傳説が此國にのみ正しく傳へられし所以、皇統の一系連綿たる所以、外國の凌辱を受けざる所以である、然るに近世の儒者などが、只管唐土をほめ尊んで、何事も彼國をのみ勝れたやうに言ひ、却て我國を見下すが如きは非常なる心得違ひの沙汰である。

と云つてゐる。かやうに本居宣長等の國文學復興運動は延いては熱烈なる忠君愛國の思想を生み、この思想が遂に種々の政治上の因縁と結んで、將軍政治の没落、王政復古を實現する動機となつたのである。……この偉大なる國學者宣長翁遺跡を一通り參觀した吾々は更に松阪から神都山田までの參宮路線を視察すべく松阪城趾を出發したのは七月二十九日の午後一時頃であつた。

(以下次號)

